

平成5年度第2回9月20日

演題：旧制高等学校におけるスポーツの制度的基盤について

演者：加賀秀雄（体育科学部）

〈問題の所在〉

わが国における近代スポーツは、明治以降設置された高等教育機関を母体として成立し、発展した歴史的系譜を有する。とりわけ「高等学校令」（1918年）の公布によって全国的に設置を見た、いわゆる旧制高等学校（以下、高校）は、その中心的な役割を果たすことになった。スポーツの展開状況をめぐる実相については、各高校で編纂された「校友会雑誌」、「運動部史」、「同窓会誌」等を通じて知ることができるところである。

ここでは、そうしたスポーツの展開状況を生み出すにいたる組織的基盤となった校友会制度を研究対象とし、以下の分析視角、すなわち①高校の設置状況、②組織目的、③活動組織、④組織運営、⑤応援団の組織化等の諸視角を設定して、実証的検討を試みたものである。

〈研究の経過〉

研究対象とした高校は、昭和初期にいたるまでに全国的にその設置を見た、官立23校、公立3校、私立4校である。これらの高校において組織された校友会の制度的実相を明らかにするために、全国的規模で史料の探索と収集を実施した。調査対象となった関係機関は、国立国会図書館、各大学付属図書館、各都府県・市立図書館及び郷土資料館、旧制高校史料保存施設、旧制高校同窓会等である。こうした経過を経て、収集された史料の整理と分析にもとづく実証的検討を試み、以下に見られる研究の総括を行った。

〈研究の総括〉

本研究は、近代日本スポーツ史研究において重要な位置をもつ、旧制高校におけるスポーツの成立とその発展過程を実証的に解明することを目的とし、その方法論的視角として、組織的基盤となった校友会制度が有する歴史的な性格と役割を明らかにすることであった。

この間、実証的検討を試みるうえで必要な基本的史料となる、「高等学校一覧」、「校友会雑誌」、「運動部史」等が、関係機関によっては、必ずしも系統的、時系列的に整理・保存されていない事実も判明し、史料の探索と収集に相当の時日を必要とした。

しかしながら、この実証的検討を通じて、高校におけるスポーツの制度的基盤となった校友会に関して、その組織化が有する理念と意義、校友会における運動部の位置と役割、校友会財政における運動部予算の構造的な特徴、応援団の組織化の意義と役割等、校友会におけるスポーツの諸実相を、全国的規模で明らかにすることができたことは、研究の展開にとって大きな集積であった。

今後に残された課題は、引続き校友会運動部における活動の具体的な諸様相に関する史料収集を全国的規模で行い、校友会運動部を全体的、構造的に把握し、旧制高校におけるスポーツの成立とその発展過程を実証的に解明していく手がかりを得たいと思量している。

なお、本研究に対して、平成2、3年度の2ヶ年にわたって、文部省科学研究費補助金の交付を受けて、本研究課題に取り組んだことを付記する。